

# 人生100年時代と生涯現役社会 ～柏モデルと生涯現役促進地域連携事業他～

～安心して活力ある超高齢・長寿社会へ～

## Gerontology

2019年10月17日

ニッセイ基礎研究所 ジェロントロジー推進室 主任研究員 前田展弘  
(東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)

…世間を賑わす「老後2000万円不足」問題！

金融庁がまとめた報告書を通る経緯

5月22日	金融審議会が報告書を発表し、老後に2000万円が必要との試算を提示。公的年金については「中長期的に実質的な低下が見込まれている」と表記
6月3日	批判を受けて書きぶりを修正した上で報告書を確定。公的年金については「今後調整されていくことが見込まれている」と修正
7日	麻生太郎金融相が「あたくも赤字になるような表現は不適切だった」と釈明
10日	安倍晋三首相が「不正確であり誤解を与えるものだった」と答弁、野党が反発
11日	麻生金融相が「正式な報告書として受け取らない」と表明。事実上の撤回へ



麻生金融相は報告書を「受け取らない」と表明(11日、財務省)

### 制度改革が急務

金融庁は、日本の老後の生活費を試算して受け取るべき公的年金の額が不足する可能性があることを明らかにした。公的年金の額が不足する可能性があることを明らかにした。公的年金の額が不足する可能性があることを明らかにした。

(2019.6.2日経新聞朝刊)

## 「老後2000万円」金融庁撤回へ 年金将来不安根強く

## 1. 個人の課題⇒後半人生の生き方改革！

### 【課題】 人生100年のライフデザイン

…人生100年をどう生きていけるか？特に延長された高齢期の生活を？

…65歳でリタイアしても残りの人生は30-40年  
あなたはリタイアした後、どうしますか？  
何がしたいですか？何ができそうですか？



■では、どうすれば…？

溜めるか？

備えるか？

殖やすか？

節約するか？



マイホームを現金化

リバースモーゲージ  
リースバック



■では、どうすれば？・・・最大の所得保障は「就業」！

<課題>

- 人生100年時代
  - 長寿の可能性⇒リスクに▲
  - 少ない年金で家計を切り詰める
  - さらに、将来不安で使えない
- 高齢期の世代内格差は拡大
  - 特に高齢単身女性は心配
  - ※今後、当該層は増え続ける
- 現在の若・中年層の将来がより深刻
  - 所得代替率・年金水準、無・低年金者の増加懸念

<解決方向・政策課題>

■ **生涯現役社会の実現！**  
 最大の所得保障は「就業」  
 ⇒長寿時代に相応しいライフコース・生き方の確立！

■ **生活困窮者**（生活保護まで至らない手間の層）への支援強化  
 ー働きたくても働けない層への対応

■ **住宅の社会保障化**

資料：国連（NU ESCAP）持続可能な高齢社会に関する国際会議「日本の高齢者の経済環境と政策課題」（2015.11）で提示したスライドを一部修正

■ 生涯現役社会の**効果**（高齢化課題解決の最大のポイント）

「生涯現役社会の実現」

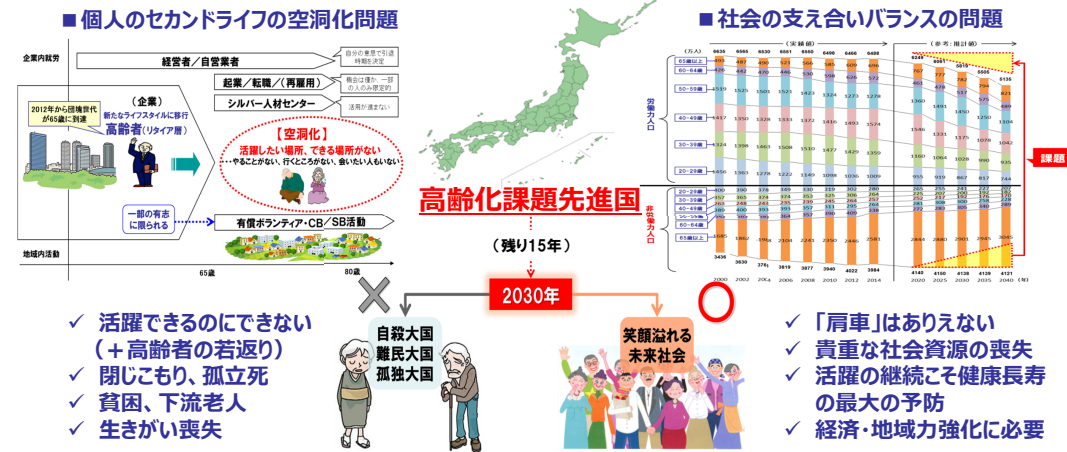
⇒個人のセカンドライフの問題と地域・社会の課題を同時に解決！



2. 生涯現役社会の必要性

『超』高齢化する未来社会  
 ～人生100年時代～

「生涯現役社会」の実現なくして、未来はない！



※内閣官房「一億総活躍社会の実現に関する意見交換会」（2015.11.17）にて提示したスライド

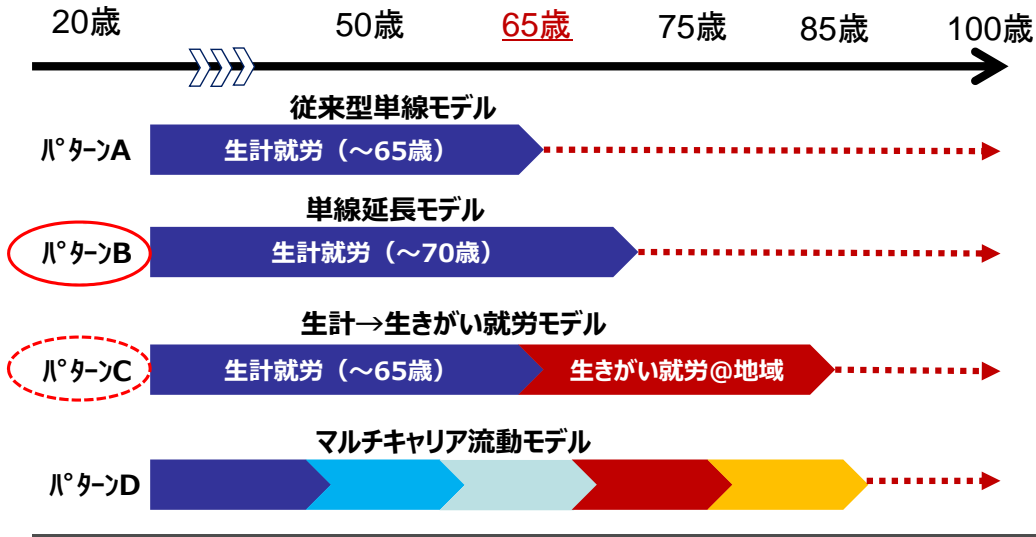
3. 【厚生労働省】生涯現役社会づくりの論点整理

【厚生労働省】「生涯現役社会の実現に向けた雇用・就業環境の整備に関する検討会」（2014/11～2015/6）（座長：清家篤 慶應義塾長）

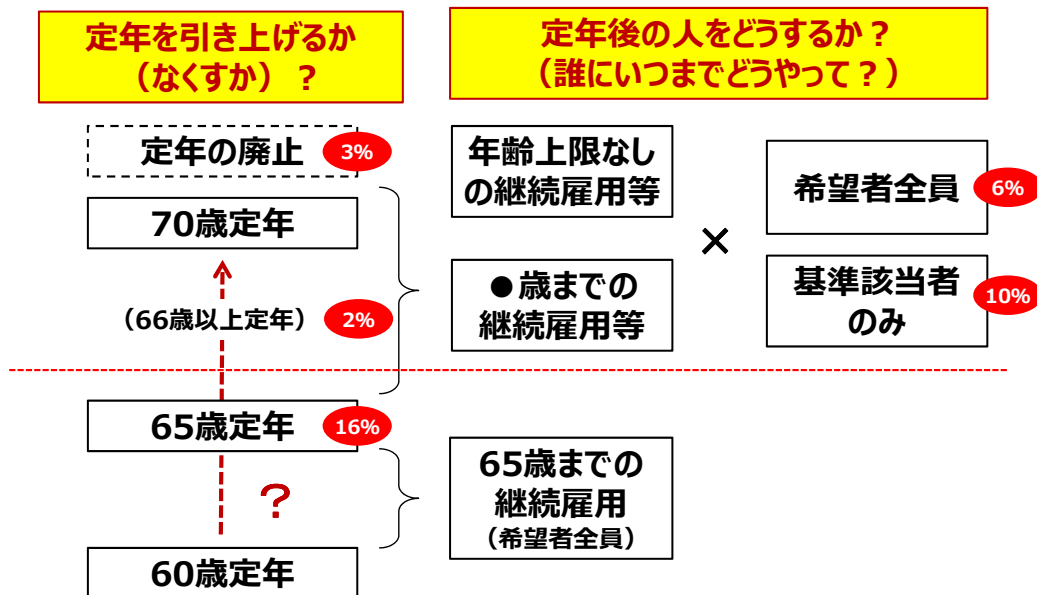
- (i) 企業における高年齢者の雇用の促進 → 企業
  - (ii) 職業生活設計と能力開発の支援
  - (iii) 中高年齢者の再就職の支援
  - (iv) 地域における多様な雇用・就業機会の確保
  - (v) シルバー人材センターの機能強化
- 市場
- 地域

### 3. 【新たな論点】人生100年時代における生き方・活躍の仕方の「選択」

【論点】 社会としてどのような生き方・活躍の仕方のモデルを理想と考え、  
そのために社会制度・システムを変革していくか？

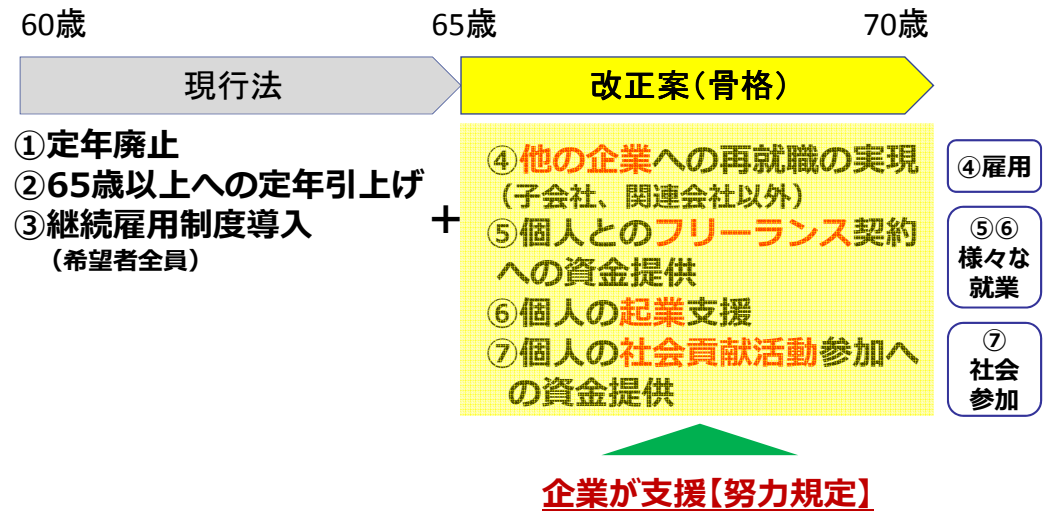


### <参考> 企業が検討していること



### <参考> 【政策方向】 70歳までの就業機会の確保

「70歳までの就業機会確保」に向けて、下記内容で閣議決定がなされた  
(2019.6.21「成長戦略実行計画」)



### 【パターンC】人生100年時代の理想の生き方・活躍の仕方 (イメージ)

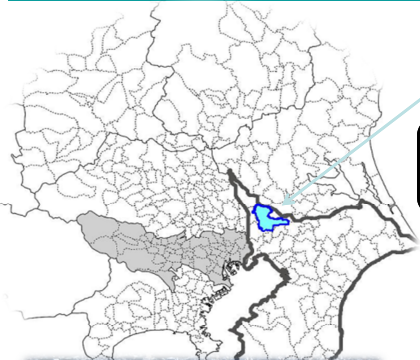


## 千葉県柏市

都心から30キロ圏。電車で3-40分。東京近郊都市として発展  
昭和30年代後半より急激に人口増。現在人口約40万  
高齢化率 2010年約20%→2030年約32%

## 豊四季台地域

JR柏駅の西側、徒歩約12-20分に位置する旧公園開発の大規模賃貸団地「豊四季台団地」(管理開始昭和39年)およびその周辺の住宅地でマンションや戸建てが混在。  
豊四季台団地は高齢化率40%、周辺地域は20%弱。  
団地は現在UR都市機構による建替えが進んでいる。



## 柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会 協定の締結

2010年当時、高齢化率が40%を越えていた豊四季台団地地域をモデルとして、「高齢社会の安心で豊かな暮らし・まちのあり方」を柏市、東京大学、UR都市機構の三者で議論し、実践するために協定を締結

### 当初協定の主な連携事項

2010年5月から5カ年

- 1 在宅医療の推進
- 2 在宅医療を担う医療・介護職の育成
- 3 **生きがい就労・生きがい支援**
- 4 生涯学習
- 5 高齢者等の住宅
- 6 移動手段
- 7 その他、必要と認める事項



### 変更後の主な連携事項

2015年5月から **継続中**

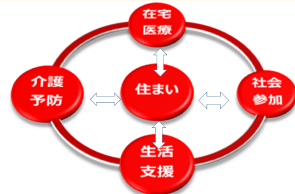
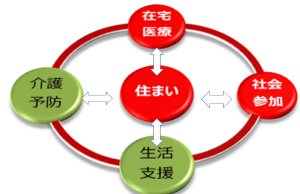
- 1 在宅医療の推進
- 2 在宅医療を担う医療・介護職の育成
- 3 **生きがい就労・生きがい支援**
- 4 生涯学習
- 5 高齢者等の住宅
- 6 移動手段
- 7 **生活支援サービス**
- 8 **健康づくり・介護予防**
- 9 その他、必要と認める事項



## 柏市豊四季台地域高齢社会総合研究会 第1フェーズから第2フェーズへ

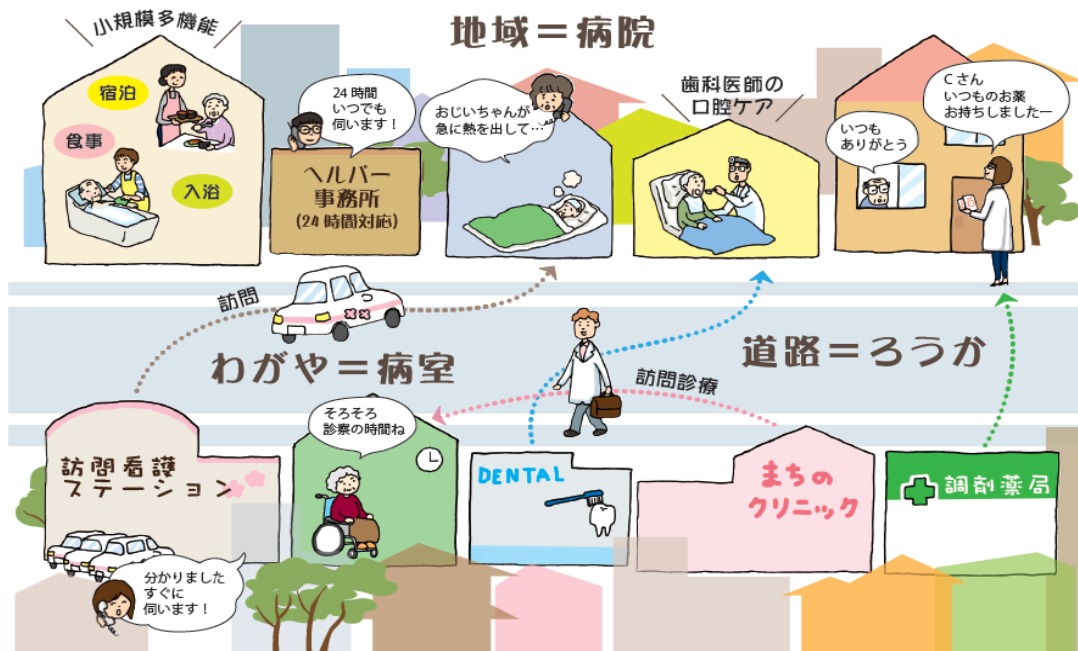
第1フェーズ 2010～2015

第2フェーズ 2015～2018



	H22	23	24	25	26	27	28	29		
在宅医療	【体制・ルールの構築】					【普及と定着、質や機能の向上】				
	在宅医療に対する負担を軽減するバックアップシステムの構築 主治医・副主治医制度の構築、病院のバックアップ機能を確保（10病院会議にて）					柏市 豊四季台 地域医療 連携センター 開業	更なる在宅医療推進体制の構築 主治医・副主治医制の機能強化、訪問STの基礎強化			
	在宅医療を行う医師等の増加及び多職種連携の推進 顔の見える関係会議、在宅医療研修の開催等						多職種連携の質、機能の向上 「患者、家族の意思決定を支える」ためのプログラムの開発 総合特区事業所を核としたトータルヘルスケアステーションの創設			
	情報共有システムの構築 ICTを活用し、患者の情報を医療・介護職で共有し、多職種連携を推進						在宅医療への取り組み成果の見える化 ICTシステムから抽出した患者・家族の声をHP等に掲載するなど、市民が在宅医療のイメージしやすい情報を発信			
	市民への啓発 民生委員等地域住民への啓発、在宅医療情報誌「わがや」の発行						在宅医療・介護連携の評価指標の設定			
生活支援							【各コミュニティエリア】 地域支え合い会議設立・運営支援			
						【フレイルチェックの実践・拡大・定着】 フレイルチェック事業 フレイル予防プロジェクト2025				
介護予防	【調査研究】 2千人の追跡健康調査 ⇒フレイル予防プログラム開発									
社会参加	【モデル開発】 生きがい就労創成					【生きがい就労の全市展開】 シルバー人材センターによる全市展開 セカンドライフプラットフォーム事業 (原労省モデル事業第1期) セカンドライフプラットフォーム事業 (原労省モデル事業第2期)				
住まい	【豊四季台】 拠点型サ高住の誘致					【その他の地域】 在宅医療・介護サービス拠点の検討				

## 在宅医療を推進して、地域を病院に

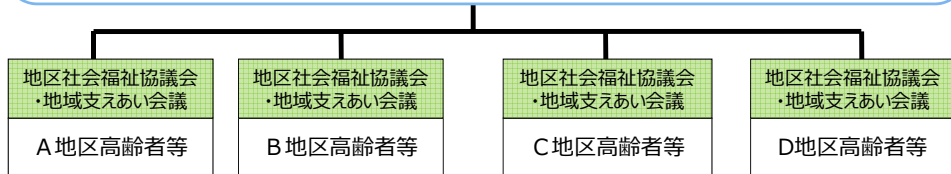


フレイル予防の推進体制

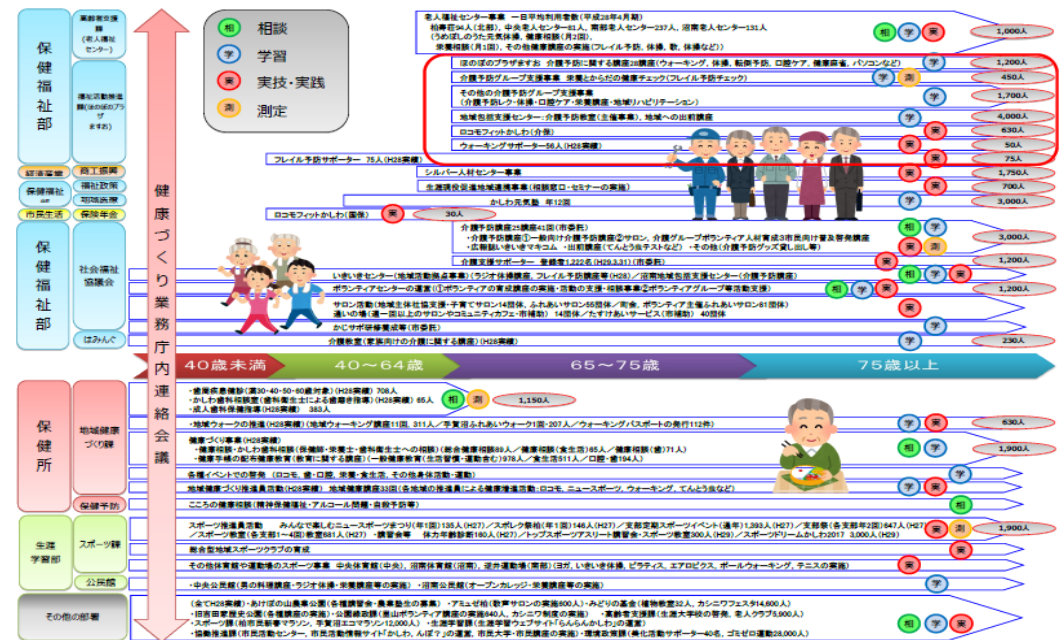
柏フレイル予防プロジェクト2025推進委員会 (H28.3月～)

フレイル予防の普及・啓発と効果的な推進，地域における市民主体の活動の促進，フレイル予防に係る関係機関の連携・調整等について協議を行う。

- アドバイザー** 柏市医師会，柏歯科医師会，柏市薬剤師会，東京大学IOG
- 委員** ふるさと協議会，社会福祉協議会，民生委員児童委員，健康づくり推進員，スポーツ推進委員，健康づくり活動団体，東葛北部在宅栄養士会，在宅リハビリテーション連絡会，地域包括支援センター，学識経験者，柏市
- 事務局** 柏市（福祉政策課，地域包括支援課）
- 推進部署** 保健福祉部，保健所，生涯学習部，市民生活部，地域づくり推進部，企画部 など



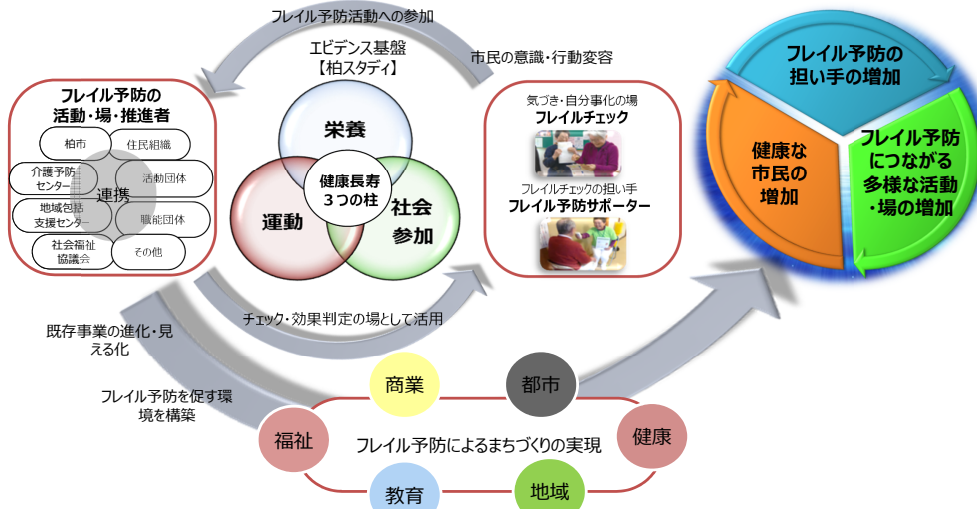
資料：柏市作成資料より



資料：柏市作成資料より

柏フレイル予防プロジェクト2025 目標

**プロジェクト目標**  
フレイル予防の概念の下，より早期からの「三位一体（栄養・運動・社会参加）」への包括的アプローチにより，いつまでも健康で充実した生活を営める健康長寿のまちを目指す

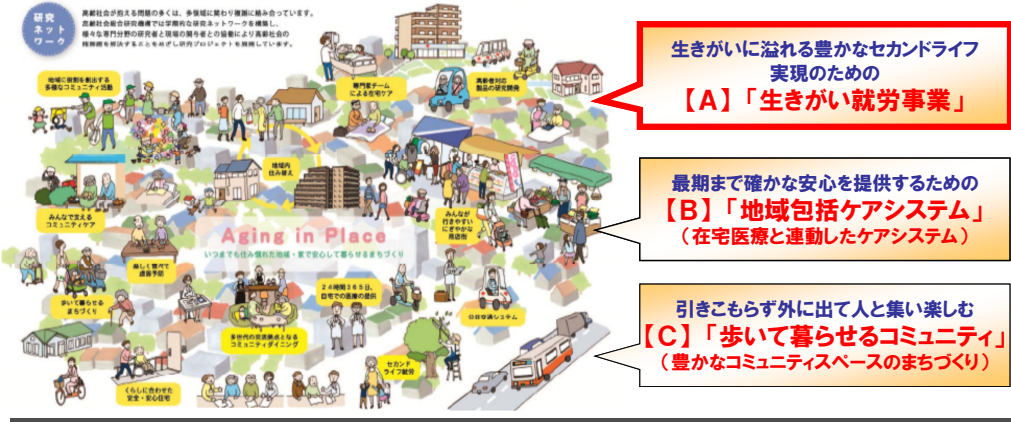


資料：柏市作成資料より

1. 柏市における「長寿社会のまちづくり」プロジェクト

**東大IOG-柏市-UR都市機構の共同事業(2009年度～)**  
柏市豊四季台地域をフィールドにした超高齢社会対応のモデル地域開発

**テーマ・コンセプト⇒「Aging in Place」社会の実現**  
…住み慣れた地域で最期まで自分らしく老いることができる社会の実現



## 2. 課題～現在進行しつつある都市部の高齢化

都市(近郊)の急速な高齢化の問題。地域に活躍場所を求めるリタイア層に対して地域はどのような準備を行うべきか？



高齢者を(自然に)外に引き出す工夫、地域の担い手として活躍できる環境整備が必要

## 3. セカンドライフ空洞化問題⇒「就労」で課題を解決！



高齢者、特に都市部リタイア層にとって最も抵抗の少ない社会参加のかたち

- 現役時代から慣れ親しんだ生活スタイル
- 帰属意識、社会的役割が明確に与えられる

一方で・・・

リタイア層のライフスタイルに応じた働き方が必要

- 無理なく、出来る範囲で働く・・・**就労時間、場所、内容の調整**
- 地域貢献、趣味を活かす、人との関わりを求める
- ...生計労働から「生きがい労働」へ



これらが両立する就労は、個人の心身の健康維持に寄与するとともに地域社会の課題解決にもつながると予測

生計維持のための就労(生計就労)

**生きがい就労**

交流・趣味・場の創造・その他

◎働きたいときに無理なく楽しく働ける + ◎地域の課題解決に貢献できる

## 4. 「生きがい就労」開発実績～事業者の開拓と雇用実現

5領域8事業を開拓。のべ230名超の生きがい就労者の雇用を実現！



## ★活躍するシニア★



学童・塾講師

<英対話を教える(上)・英語あそび(下)をする高齢者>



保育・子育て支援

<「読み聞かせ」の模様>



6. 事業者と就労シニアの声 (評価)

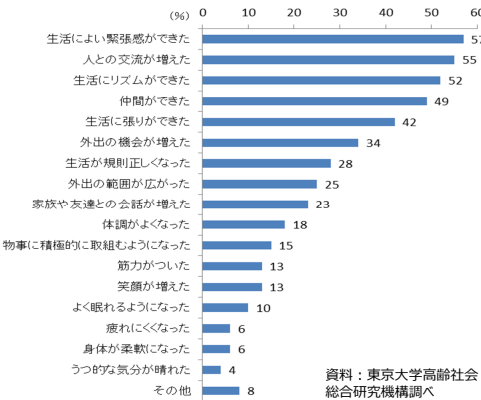
事業者

- 「早朝や午後の少しだけ短時間の労力が欲しいときにシニアの就労は助かる(短時間だけでは若者を雇用できない)」
- 「若者は教育コストがかかるが、高齢者はかからない、即戦力として活躍してもらえる」
- 「最低賃金レベルのコスト(学童保育のみ他の雇用者と同賃金)で有能な人材を雇用できるのはありがたい」
- 「高齢者に周辺業務を担ってもらえることで、保育士や介護士が本業に専念できて事業全体としてのパフォーマンスが上がった」等

就労シニア

- 「地域に友人はいなかったが、新たに仲間ができてよかった」
- 「僅かながらも年金以外の収入が得られることで、旅行やおいしいものを食べるといった新たな楽しみができた」
- 「何よりも生活のハリができて、規則正しい生活に戻った、就労のある日は身だしなみを整え、気分的にもハリを感じる」
- 働き始めてから健康になった 等

就労シニアが生きがい就労を経験して感じた変化 (n=160,複数回答)



資料：東京大学高齢社会総合研究機構調べ



高齢者の活躍場の開拓

■ お願いではなく、事業に活かす視点で

就労セミナー

■ セカンドライフの新たなチャレンジの動機づけ



生きがい就労

住民と事業者をつなぐ  
中間支援の機能

開拓力

■ 地元の事業者へアプローチ

コーディネート力

■ ジョブコーディネータの活躍

提案力

■ ワークシェアリング、業務分析



生きがい就労の実践

■ 新たなキャリアにチャレンジ  
- 農業を楽しむなど



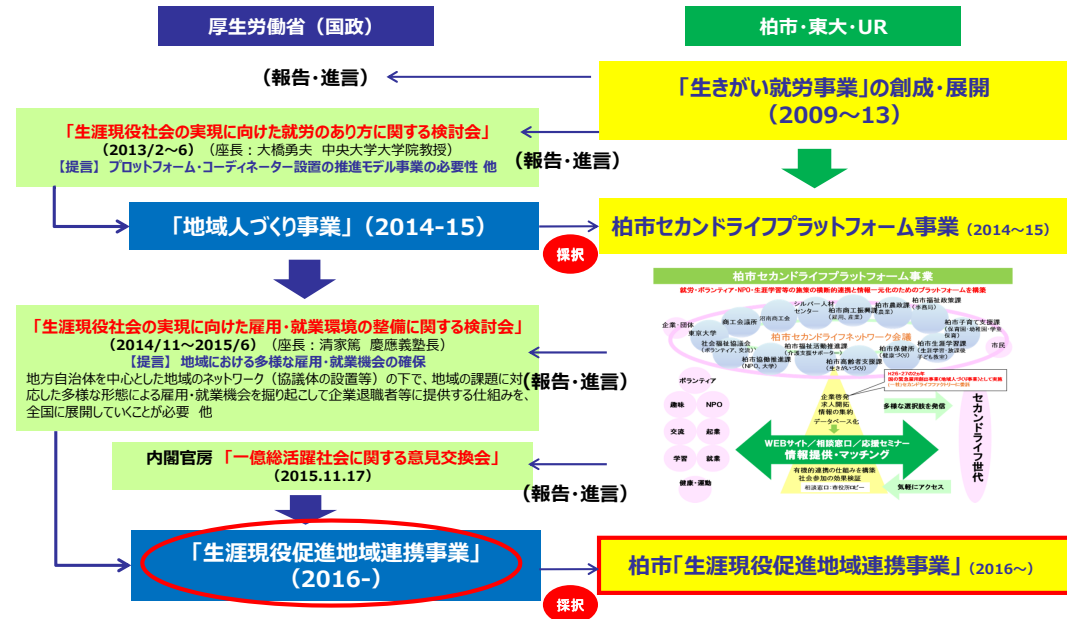
■ キャリアを活かす - 英対話を教える



■ 現役をサポートして活躍する



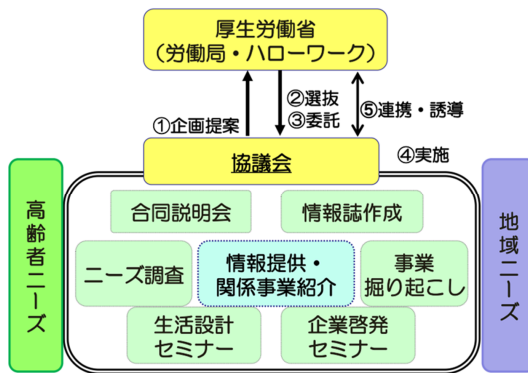
7. 生きがい就労事業以降の展開



生涯現役促進地域連携事業（厚生労働省、2016～）

少子高齢化が進展し、労働力不足が課題となっている中で、働く意欲のある高齢者が能力や経験を生かし、年齢に関わりなく働くことができる生涯現役社会を目指して…

地方自治体が中心となって構成される「協議会」等からの提案に基づき、地域における高齢者の就労促進に資する事業を幅広く実施。



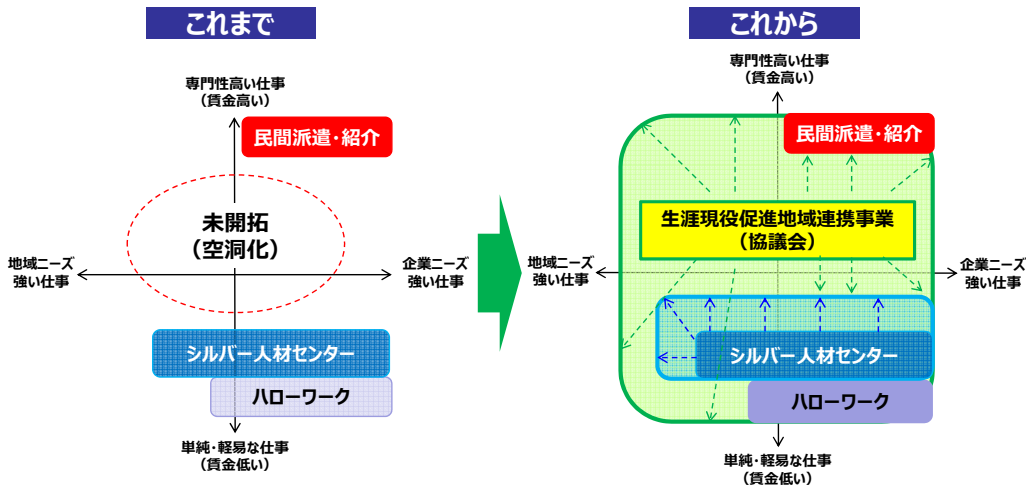
生涯現役促進地域連携事業 地域マップ

2019/9現在 (25都道府県・37市区町村)



生涯現役促進地域連携事業の展開イメージ（本来の意味）

地域（自治体及び関係機関）が一丸となって、  
高齢者の力を地域課題の解決に活かす活動を展開（＝活躍の場を拡げる）

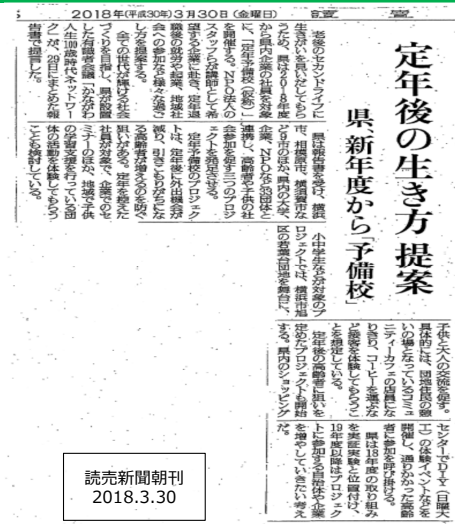
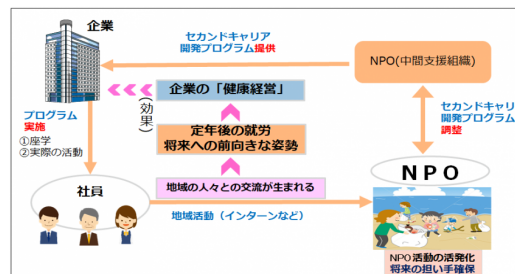


<参考①>【神奈川県】人生100歳設計図プロジェクト①

生涯現役マルチライフ推進プロジェクト（2018～）

「かながわ人生100歳時代ネットワーク」  
＝県、市町村、大学、民間、NPO等が情報を共有し、  
協働して取組みを進めていくためのネットワーク

【目的】「人生100歳時代」において、県民一人ひとりが自分自身の人生の設計図を描き、生涯にわたり輝き続けることができる社会を実現するため、新たな資格・スキルを学べる場や機会を「つくり」、また、活躍できる場につなげるしくみを創出します。





かながわ人生100歳時代ネットワークについて

- (1) 目的  
「人生100歳時代」において、自分自身の人生の設計図を描き、一人ひとりが生涯にわたって輝き続けることができる社会を実現するため、学びの場や機会を「つくり」、また、活動の場に「つなぐ」しくみを創出する。
- (2) 経緯  
2016年度、議論の年と位置づけ、様々な機会を通じて「人生100歳時代の設計図」について課題提起し、幅広く議論を重ねてきた。そして、「意欲ある高齢者が、いくつになっても、学び直し、社会参加や仕事を通じて活躍できるしくみづくりが大切である」、「行政や企業、大学等が連携した取り組みが必要である」などの意見をいただいた。  
こうした意見を踏まえ、県をはじめ、市町村や大学、NPO等の多様な主体が情報を共有し、協働して取り組みを進めていくため、2017年6月に「かながわ人生100歳時代ネットワーク」を立ち上げた。
- (3) 構成員 (75団体・有識者3名) ※ 順不同 2019年5月末現在 (今後拡大予定)
- 【行政】 県、横浜市、相模原市、横浜賀賀市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、大和市、綾瀬市、三浦市、湯河原町、寒川町、神奈川労働局 (13団体)
  - 【大学】 東海大学、横浜国立大学、神奈川大学、関東学院大学、横浜市立大学、松蔭大学、県立保健福祉大学、昭和音楽大学、星槎大学、横浜商科大学、昭和大学、横浜薬科大学、東京都市大学 (13団体)
  - 【民間】 第一生命保険、横浜銀行、大塚製薬、タウンニュース社、NTTドコモ、東急不動産R&Dセンター、日本生命保険、オイレス工業、アズビル (9団体)
  - 【NPO】 ソーシャルコーディネートかながわ、NPOサポートちがさき、YUVEC、藤沢市民活動推進機構、さがみはら市民会議、YMCAコミュニティサポート、I Love つづき、シニアネットワークおだわら&あしがら、鎌倉市市民活動センター運営会議、横浜移動サービス協議会、湘南スタイル、若葉台、若葉台スポーツ・文化クラブ、湘南ふじさわシニアネット、ホームスクーリングで輝くみらいタウンプロジェクト、学習サークルBE-GLOBAL (16団体)
  - 【団体】 神奈川県社会福祉協議会、神奈川県住宅供給公社、神奈川県経営者協会、神奈川県商工会議所連合会、神奈川県中小企業団体中央会、神奈川県商工会連合会、神奈川県シルバー人材センター連合会、プラチナ構想ネットワーク、UR都市機構、神奈川県中小企業家同友会、茅ヶ崎市まちから協議会連絡会・12地区協議会・1地区連合会 (24団体)
  - 【有識者】 牧野 篤 (東京大学大学院教育学研究科 教授、東京大学高齢社会総合研究機構 副機構長)、前田 展弘 (ニッセイ基礎研究所 主任研究員、東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)、澤岡 詩野 (ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員) (3名)

資料：かながわ人生100歳時代ネットワークHPより  
http://www.pre.kanagawa.jp/docs/k8d/100yife/life\_network.html#H30houkoku

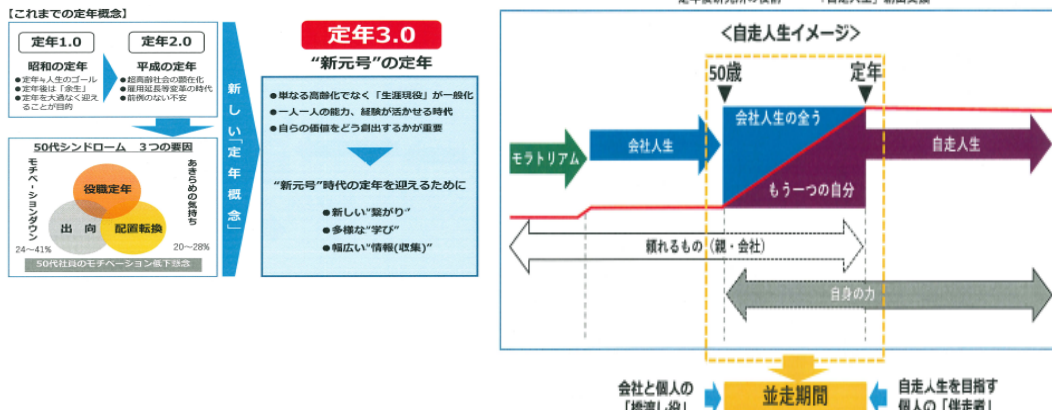
「シニア案内士」養成事業スタート！（2018～）

【参考】埼玉県シニアライフ案内士養成事業 の新聞記事



<参考③> 50代の未来を応援する「定年後研究所」の発足！

一般社団法人「定年後研究所」（2018～）



https://www.teinengo-lab.or.jp/

【JST/未来社会創造事業】  
労働人口減少を克服する"社会活動寿命"の延伸と人の生産性を高める「知」の拡張の実現

2017年度～

2018年度採択
4 遠隔操作型対話ロボットによる知の質と量の向上 石黒 浩 (大阪大学 先導的学際研究機構 共生知能システム研究センター センター長・教授 (基礎工学研究科))
5 ICTを活用した、協調に関わる技能とチームスキルの継承支援 植田 一博 (東京大学 大学院総合文化研究科 教授)
6 「身体知」の可視化と伝承 小池 康晴 (東京工業大学 科学技術創成研究院 教授)
7 知識ダイナミクス社会の実現のための知識基盤の構築 武田 英明 (情報・システム研究機構 国立情報学研究所 教授)
8 人材の多様性に応じた知的生産機会を創出するAI基盤 檜山 敦 (東京大学 先端科学技術研究センター 講師)
2017年度採択
1 学習アナリティクス基盤の拡張による多世代共創及び社会活動支援 木貫 新一 (九州大学 基幹教育院 教授)
2 認知科学と制御工学の融合による知能化機械と人間の共生 鈴木 達也 (名古屋大学 大学院工学研究科 教授)
3 「知」の循環と拡張を加速する対話空間のメカニズムデザイン 谷口 忠大 (立命館大学 情報理工学部 教授)

http://www.jst.go.jp/mirai/jp/program/sustainable/index.html#theme02

労働人口減少を克服する“社会活動寿命”の延伸と人の生産性を高める「知」の拡張の実現

人材の多様性に応じた知的生産機会を創出する AI 基盤

研究開発代表者： 檜山 敦 東京大学 先端科学技術研究センター 講師

共同研究機関： 東京大学 高齢社会総合研究機構  
株式会社リクルートマネジメントソリューションズ、日本アイ・ビー・エム株式会社



目的：

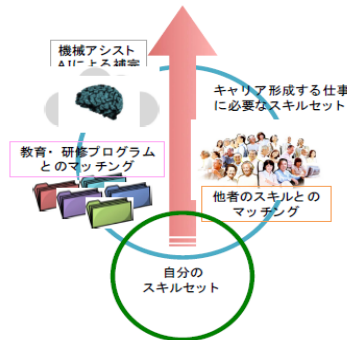
個人のスキル特性を抽出し、仕事に要求されるスキルセットを記述可能にすることで、人材と仕事とのマッチングを行う。それにより、人材の多様性と特殊性に配慮して働き方とキャリア形成の道筋を示す、『人と仕事を結びつける』新しいAI基盤の構築を目指す。

研究概要：

今日の就労体系のまま、年間100万人の本格的な人口減少を迎えると、現役世代にのしかかる負担は計り知れない。メンバーシップ型の人事体系は、就職氷河期以降の非正規就労の拡大に伴い、若年層のキャリア形成を妨げている。柔軟な働き方と多様な人材の社会参画を達成するためには、ジョブマッチングにおける「暗黙知」を学習し、技術革新に伴う仕事に求められるスキルの変化に対応して、人と仕事を結びつけるテクノロジーが必要となる。

従来、キャリアコンサルタントの「経験」や「勘」等の定量的に捉えにくかった要素のビッグデータ化・構造化を行い、個人のスキルセットと仕事に必要なスキルセットとを可視化することで、スキル獲得・他者のスキル・AIとの融合をも考慮したジョブマッチングシステムの構築に取り組む。それにより、柔軟で多様な働き方と知的生産性向上を達成し、全員参加・生涯参加社会を目指す。

人の知的活動能力の拡張



# Gerontology

2019年10月17日

ニッセイ基礎研究所 ジェロントロジー推進室 主任研究員 前田展弘  
(東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)